

対談

伝統と新しさ
心地よさを感じる
豊かなまち板橋

常識、良識、美意識をベースに「あったらいいな」を形にする

区長 水戸岡さんの斬新であたたいデザインは、多くの人を感動させ、世界的にも高い評価を受けていますね。どのようなことを考えながらデザインを生み出してきたのですか？

水戸岡 昔から日本にある長い歴史の中の知恵、形、色、素材などをうまく使いたいという意識があり、そこに最先端のシステムを合わせていく。こうして新しく懐かしいもの、利用者が使って心地よいと思えるものを作り出しています。心地よい空間をつくれれば、人間はリラックスして笑顔になり、豊かな気持ちになる。そういう時間と場所と道具をつくるのが、われわれデザイナーの仕事だと思っています。

区長 展覧会で拝見した、魚、動物、植物のポスターのリアルな表情と鮮やかな色づかいに感動しました。

水戸岡 描く対象の美しい瞬間を

想像しながら描きました。以前、博物館の仕事をした時や、百科事典のイラストを頼まれた時に、色と形と、機能を学習しました。ポスターには、正確な形を描いていますが、思い切った色を入れて魅らせてアピールしています。動物や植物を描くことはとても面白い。建築デザインを多角的な切り口で捉える事ができ、デザインの幅が広がります。

区長 利用者の気持ちをごこまで読み取り、それを生かしてどう強調するか、ということでしょうか。

水戸岡 はい。ただし、それが、一過性のものではなくて、普遍性と多様性を持ったものが理想です。多くの方が望んでいるからといって、瞬間的にOKなだけでは価値がない。利用者の思いを理解した上で、将来的なことも考えながら、過去の経験からアイデアをもらい、鳥瞰的な視点でものをつくることが重要です。

工業デザイナーとして活躍し、当記念誌のデザインを手掛られた水戸岡鋭治さんをお迎えして、坂本区長と対談を行いました。デザイン、まちづくり、人材育成や、板橋区の魅力の創出などについて二人の思いを紹介します。



サービスを提供する上で重要なのは「人」の思い

区長 昨年、九州新幹線を利用しました。水戸岡さんの素晴らしいデザインを体感したことに加え、乗務員の方のサービス精神あふれる迅速な対応から仕事に対する誇りが伝わり、感銘を受けました。



水戸岡 車両の色、形、素材、外観も大事ですが、最も大切なのはサービスですね。目配り、気配り、心配りにスピード、笑顔、これが大切です。JR九州では、現場の社員が、トップの心意気をお客様に伝えるという意識が高いのです。

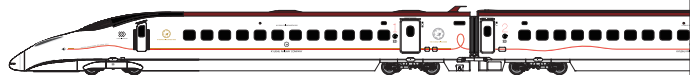
現場は一期一会を大切に柔軟に対応している。日々の応対の中で、いかに感動を与えるかということに十分には体现されてきました。

水戸岡さんは、人材育成についてどのような思いで取り組んでいますか？

水戸岡 総合的に創造的な視点で、誠心誠意フェアプレイをしていくことをスタッフにも伝えていくつもりです。

手間暇をかけることを惜しまない。体力、気力、知力でどんな困難も乗り越えられると思っています。それをどうやって育んでいくかという、日々の研鑽が不可欠です。

区長 企業が現場を大事にしている、



水戸岡 鋭治(みとおか えいじ)さん

JR九州の「九州新幹線」など鉄道車両や、バス、船、駅舎などのデザインを数多く手掛け、「交通文化賞」「毎日デザイン賞」など鉄道デザインにおける数々の賞を受賞。またこれまでの業績に対して「第59回菊池寛賞」「平成23年度区民文化栄誉賞」を受賞した。(中丸町在住)

EIJI MITOOKA

